チェックしてみよう

投資信託には、日本の「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づいて設定される投資信託(国内投信)と、外国の法律に基づいて設定され日本で販売される投資信託（外国投信）があります。

このガイドは、初心者が知りたい情報を得やすいという理由から、国内投信を対象としています。また、不動産投信はこのガイドでは対象としていません。

～はじめに～

あなたが買おうとしている投資信託の「目論見書（もくろみしょ）」（投資信託説明書と記されていることもあります）の表紙をめくって下さい。『証券取引法第5条の規定により有価証券届出書を〇〇財務局長に提出し、〇月〇日に効力が発生しています』という記載があれば、正規の手続きに従って販売されている投資信託です。まだ目論見書をもらっていない場合は、すぐに販売会社に請求しましょう。

それでは、目論見書を手元に置いて、以下の質問に答えて下さい。「いいえ」と答えた場合は、すぐに買うのは控えましょう。

Q１．投資信託は、多くの投資家からお金を集めて、資産運用の専門家が株や債券などに投資をし、その収益を投資家に分配する仕組みの商品であることを知っていますか？

・はい
・いいえ→（社）投資信託協会のホームページページ（http://www.toushin.or.jp）や同協会が無料配布している資料やパンフレットを入手することから始めましょう。

投資信託は投資商品です。証券会社のほかに銀行や郵便局などでも販売していますが、預貯金のように元本の保証があるわけではありません。損をすることがあることを忘れないでください。

Q２．投資信託の運用は、投資信託会社が担当していることを知っていますか？

・はい
・いいえ→Q1.の資料やパンフレットなどの解説を読んで下さい。

販売会社は運用はしていません。運用を行っているのは投資信託会社です。投資信託会社は内閣総理大臣の認可が必要で、2006年11月末現在、約70社（不動産投信運用会社を除く）が認可されています。

Q３．「目論見書」を読みましたか？

・はい
・いいえ→がんばって読みましょう。「こんな難しいものは読めない」という人は、投資には不向きです。

大切なお金の運用を任せるのですから、必ず読んでください。「目論見書」には投資信託の仕組みや運営に関する重要事項が記載されています。分からないことは販売会社のコールセンターもしくは投資信託会社に尋ねましょう。「分からないことを恥ずかしがらない、面倒がらない」ことが、賢い投資家になるための第一歩です。

Q４．その投資信託を運用する投資信託会社について調べましたか？

・はい
・いいえ→その会社のホームページを見るか、販売会社から資料を入手しましょう。

あなたの大事なお金の運用を任せるにふさわしい会社かどうかを確認しておきましょう。日本における認可や運用資産の規模、営業年数、行政処分など過去のトラブルの有無なども確認しておくと安心です。

Q５．その投資信託は、設定されてから3年以上経過していますか？

・はい
・いいえ→初心者は3年以上の運用履歴がある投資信託から始めることをお奨めします。

新たに設定、販売される投資信託では、過去の運用成績を知ることができません。少なくとも3年以上運用され、過去の運用成績を調べることができる投資信託を選びましょう。
投資信託の運用の良し悪しを評価するには少なくとも3年の運用履歴が必要、と多くの専門家が指摘しています。投資信託の評価会社も評価対象を、3年以上運用が続いている投資信託に限定しています。ただし、運用成績は過去のものですので、将来の運用成果などを保証するものではありません。

Q６．その投資信託の残高（純資産総額）は30億円以上ありますか？また、それは増加傾向にありますか？

・はい
・いいえ→初心者は残高が30億円以上ある投資信託から始めることをお奨めします

残高が少ないと、「十分な分散投資ができない」「採算割れが生じる」など、投資信託会社の都合で運用が中止（繰上げ償還）されることがあります。残高とその推移を販売会社のコールセンターや投資信託会社に尋ねてみましょう。参考までに、日本の追加型株式投資信託の平均残高は164億円程度（2006年10月末現在）です。

Q７．投資信託には「基準価額」という値段があり、それが毎日変わることを知っていますか ？

・はい
・いいえ→「基準価額」がどのようにして算出されているのかを（社）投資信託協会のホームページや『投資信託ガイド』で確認しましょう。

投資信託は様々な国や地域の資産（株式、債券、上場不動産投資信託など）に投資する商品なので、それらの値動きによって日々の値段（基準価額）が上がったり下がったりします。どのような要因（金利や為替、政治や経済の状況など）によってどのような影響を受けるのかを、販売会社や投資信託会社に尋ねてみましょう。説明を受けてもよく

分からない場合は購入は見送りましょう。

Q８．その投資信託の基準価額を調べる方法を知っていますか？また、運用成績（基準価額・収益率・分配金の推移）を実際に確認しましたか？

・はい
・いいえ→基準価額は、日本経済新聞の朝刊のほか、(社)投資信託協会のHPにも公表されています。設定から１年以上経過している投資信託であれば、「運用報告書」を入手して、運用成績を確認することができます 。

過去の運用成績が将来も継続するわけではありませんが、少なくとも3年以上にわたり良い運用成績を残している投資信託を選びたいものです。

購入後も、毎日とは言いませんが、少なくとも一ヶ月に一度は基準価額を確認するようにしましょう。基準価額をチェックし記録する習慣を身につけることが、投資の基本となります。

Q９．投資信託を買うと、あなたは、「販売手数料」以外に「信託報酬」というコストをずっと負担することになります。そのことを理解していますか？

・はい
・いいえ→購入してから売却するまでに、どのようなコストをいくら負担することになるのかを確認しておきましょう。

「販売手数料」は購入時に販売会社に支払うコストで、通常、購入金額の2～3%です。「信託報酬」は、投資信託の運用・運営の報酬として、保有期間中、間接的に支払うコストで、通常、残高の1.5%程度ですが、これは、日々、運用中の資産から差し引かれ、基準価額を下げる要因となります。なお、「販売手数料」は無料でも、「信託報酬」が高い投資信託もあります。総コストが高いと、あなたが手にする収益は少なくなることを理解しておきましょう。

Q１０．投資信託を購入した際の損益の計算方法を知っていますか？

・はい
・いいえ→販売会社に確認しておきましょう。

投資信託の損益は、[(現在の基準価額－購入時の基準価額)＋受取分配金の総額]という式で計算できます。また、分配金が支払われると、その分、基準価額を下げる要因となります。

Q１１．いつでも売却して換金できますか？

・はい
・いいえ→いざという時の備えや、使う予定がはっきりしているお金の運用であるならば、この投資信託はやめておきましょう。

投資信託によっては売却を受け付けない期間（クローズド期間）を設けている投資信託があります。また、売却時に「信託財産留保金」や「解約手数料」というコストを支払わなくてはならない投資信託もあります。換金方法も含め、購入前に必ず確認してメモしましょう。また、基準価額は短期的には大きく変動することがあるので、いつでも売却して換金できる投資信託でも、近い将来使う予定がはっきりしているお金の運用には不向きです。

Q１２．もし、その投資信託の基準価額が大幅に下落してしまった場合、あなたの生活、大丈夫ですか？

・はい、大丈夫です。
・いいえ→あなたにとって大幅に損をしてもダメージのない金額がいくらかを考えて投資しましょう。

投資信託は、近い将来に使うことが決まっているお金の運用には不向きです。投資を始めるにあたっては、大幅に損をしても支障のない金額から始めましょう。あなたが投資しようとしているその金額、大丈夫ですか？！

【良質な金融商品を育てる会とは】
私たちフォスター・フォーラムは、自立した暮らしに欠かすことのできない「良質な金融商品」を育てることを目的に、金融サービス提供者、行政、個人、消費者団体等に向けて、さまざまな提言や情報発信を行います。
設立：2004年(平成16年)11月
主な活動：金融商品・サービス、金融に係わる制度・法律に関する調査・研究・出版・翻訳・教育、その他。
ホームページ　http://www.fosterforum.jp

バイヤーズ・ガイド（投資信託編）

初めて投資信託を買うあなたへ

作成：２００６年１２月（ver.1.1）

Foster Forum

★フォスター・フォーラムからのメッセージ★

私たちは、よい投資信託を選んで、長期にわたって一定額をコツコツと買い増すことが、資産形成に結びつく賢い買い方だと考えています。